

# クラフト市の活動から空家利活用プロジェクトへ

## 勝山町並み体験クラフト市実行委員会

### 活動の目的

「イベントから日常へ」というコンセプトを目標にクラフト市をものを提供するだけを目的にするものでなく、体験に基づく市を開催することによりクラフトに対する深い理解と興味を持ってもらうことを目的とする。そして、体験クラフト市の活動からの派生により空き家の利活用の具体的な新しいプロジェクトも段階的に推進していく。こうした新しい動きに積極的に深く関わる若い人材への窓口として本イベントを企画した。また、プロジェクトを推進するためのふるさと納税を立上げ、町並みの景観保全やまちづくりへの参加意識を高めて行く。

### 活動の内容及び経過

開催日 平成29年10月7日(土)・8日(日)

場 所 勝山町並み保存地区内及び周辺各所

イベント夜学校 平成29年10月2日(月)

場 所 勝山文化往來館ひしおホール

参加作家・団体 26団体 発酵ランチ提供店 5店舗

和紙作りや彫刻など「彫る・削る・磨く」8種、木工や革細工など「作る・描く・組立てる」4種、竹細工や染色など「編む・織る・紡ぐ・染める・縫う」8種、塗香やお茶の手もみなど「食す・味わう・感じる・探す」10種、計30種の体験プログラムを実施した。この内、「薬草フィールドワーク」、「勝山＝町並み歴史散策」の2プログラムは、同日開催した全国薬草シンポジウムの連携事業として実施した。この他、地域の飲食店5店舗の協力を得て「発酵ランチを食そう」では、市内の発酵食材を使つた食事の提供を行った。

ワークショップ参加者数505名、来場者数1,750名(推定)。イベント「夜学校」参加者43名。勝山高等学校「勝高屋こしろ」8名 真庭高等学校ボランティア参加7名。岡山県立大学「ボランティア演習」参加者10名 他県立大学ボランティア2名。

### 活動の成果・効果

地元の歴史をテーマにした、イベント「夜学校」に幅広い世代の参加があり大変好評であった。地元高等学校の店出や会場の清掃＝設営に参加することによりボランティアの意義や達成感、地域への愛着を深めることができた。また、県立大学生「ボランティア演習」による参加作家のサポート、来場者対応、イベント撤収作業などを行うことで、参加作家や来場者・市民との交流を深めると共に学生同士の口コミやSNSにより勝山の魅力の情報が発信できた。この他、昨年のボランティア演習参加者の中から2名の学



生が自主的にボランティアスタッフとして参加してくれたことも、クラフト市の成果の一つと感じている。

### 今後の課題と問題点

一昨年から地元の高校や県立大学からの参加があるが、地元の若者のまちづくりの動きを活性化させていくことが大きな課題となっている。若者、中堅を含めた新たな地域づくりのリーダーの育成とこれまでの取り組みの発展的な継続が求められている。また、市内の人＝地域のネットワークの拡大と深化を進め、更なる勝山ファンやリピーターを呼び込む情報の発信やまちづくりと一体化した取り組みを行わなければならない。

- 代表者：加納容子 ●所在地：真庭市勝山
- TEL：0867-44-2013
- E-MAIL：craft-hishio@aioros.ocn.ne.jp
- URL：https://www.facebook.com/katsuyamacraftichi
- 設立年：2014年 ●メンバー数：8名